

会 議 録		
会議名	第38回日野市地域公共交通会議	
日時	令和2年7月15日(水)	
会場	書面開催	
出席者	委員	別紙のとおり
	事務局	都市計画課 浅川主幹、川上主事、大貫主事
議題	議事 (1) 令和元年度決算(案)について(協議事項) (2) ワゴンタクシー土日祝日運行実証実験について(協議事項) (3) 令和元年度利用状況について(報告事項) (4) 見直し基準適合状況の検証について(報告事項)	
公開・非公開の別	非公開	
傍聴人の数	—	
<p>(1) 令和元年度決算(案)について(協議事項) (資料1参照)</p> <p><議決> ・「地域協働型交通の導入ガイドライン(案)について」は承認された。</p> <p>(2) ワゴンタクシー土日祝日運行実証実験について(協議事項) (資料2参照)</p> <p>委員 市の財政が逼迫している中、今回の中間検証での判断はやむを得ないと思う。9月末までの分析で好転すれば良いが、このコロナ禍の中厳しいと思われる。土日祝日運行の廃止も念頭に置いていた方が良く思う。 ⇒コロナの影響で今年度は昨年度よりも利用実績が悪くなるのが想定される。土日祝日運行の廃止も念頭に置き、9月末までの実績も踏まえ最終的に判断する。(事務局回答)</p> <p>委員 土日の利用者が少ない実態を地元で周知し、残りの実証運行期間においても利用増なければ断念するしかない。 ⇒コロナの影響があるため利用促進のための周知は控える必要があると考えているが、休日の利用者が少ない実態については地元で周知する必要があると考えている。(事</p>		

務局回答)

委員

特に平山ルートは中間検証でも厳しい結果の中、様々な角度で見直しを検討され引き続き状況を注視することになると思われるが、コロナ禍の影響をどのように反映するかも最終判断のポイントになると思われる。

⇒コロナの影響で今年度は昨年度よりも利用実績が悪くなることが想定されるが、最終的には9月末までの実績を踏まえて判断する。コロナの影響も踏まえてどのように判断するかについては今後事務局で検討する。(事務局回答)

委員

残念だが基準に従った検討であり、土日祝日運行廃止の方向性はやむなしと考えている。

⇒基本的には今回策定した基準に基づき判断し、9月末までの実績も踏まえ最終的に判断する。(事務局回答)

<議決>

- ・「ワゴンタクシー土日祝日運行について」は承認された。

(3) 令和元年度利用状況について(報告事項)

(資料3参照)

委員

ミニバスについては健闘していると思う。ワゴンタクシーについては、福祉施策との連携等、あり方を見直すことも検討する必要があると思う。

⇒ワゴンタクシーについては一人で停留所まで行き乗降ができる方を対象としており、福祉施策とは切り離した乗り合い型の公共交通として考えている。しかし実態としては高齢の利用者が多いことや、車椅子での乗車に対応できないことがある。定期的にアンケート調査等を実施し、ニーズに沿った運行形態について検討していきたいと考えている。(事務局回答)

委員

新型コロナウイルス感染症による自粛要請により、利用者が減ったと思われる2,3月期を含めての横ばいは良いと考えられるが、新型コロナウイルス感染症が収束できていない現状を考え今後の対策を考えていた方が良いと思われる。

⇒本来であれば、利用者の減少による運賃収入の減収に応じて運行本数を減らすこととなるが、運行本数を減らすことで3密が生まれかねないため、現段階で減便は考えていない。今後テレワーク等が普及し、長期的に見ても利用者が減少傾向になるようだ

と減便することも視野に入れる必要があると考えている。(事務局回答)

委員

南平路線は増便の影響かと思うが人口の動向からみても利用が増えることは見込めない。引き続き動向を見ながら今後の方向性を見定めてほしい。

⇒増便により利用者が増加したが、増加した経費に見合うほど収入の増加は無く、結果的に収支率は悪化し市の財政負担が増している。引き続き今後の動向に注視していく。(事務局回答)

委員

コロナの影響については注視する必要がある。

⇒コロナの影響については引き続き注視し、必要に応じて見直しを検討する。(事務局回答)

委員

平山地区は高齢化が顕著であり、利用率の低さのみをデータ取りして方向付けしていくのか。

⇒毎年実施することは難しいが、定期的に OD 調査やアンケート調査等を実施し、利用者のニーズを把握し、計画に反映させていきたいと考えている。(事務局回答)

(4) 見直し基準適合状況の検証について (報告事項)

(資料4参照)

委員

新型コロナウイルス感染症が収束しない現状で外出を控える人が増え、利用者の減少が考えられる。今後の対策を考えておいたほうが良いと思われる。

⇒本来であれば、利用者の減少による運賃収入の減収に応じて運行本数を減らすこととなるが、運行本数を減らすことで3密が生まれかねないため、現段階で減便は考えていない。今後テレワーク等が普及し、長期的に見ても利用者が減少傾向になるようだと減便することも視野に入れる必要があると考えている。(事務局回答)

委員

タクシー利用券を配ったほうが安価なので「見直し」という基準だが、1人当たりの運賃は1,400円-200円(ワゴン運賃を差し引く)とし、 $1,200 \text{円} \times 5.09 \text{人} = 6,108 \text{円}$ と比較すべきでは?

⇒「ワゴンタクシー便当たり運行経費」は運賃収入を反映させていない純粋な運行経費として算出しているため、「個別にタクシーを利用した場合の運賃合計」についても運賃収入は含めず算出した。(事務局回答)

委員

コロナの影響で収支の悪化及び利用客の減少が見込まれることから、今後の検証については留意する必要がある。一方ではコロナ後の公共交通のあり方については、議論する必要があると考えている。

⇒今後テレワーク等が普及し、長期的に見ても利用者が減少傾向になるようだと減便することも視野に入れる必要がアRと考えている。また見直しを実施するにあたってはコロナ後の社会情勢等も踏まえて判断する必要があるので随時検討していきたいと考えている。(事務局回答)

委員

いままで考えてきた基準に則った結論を出し、そのうえで生活路線のあり方に対する議論をしていくのかと思う。

⇒この基準は「見直し実施を判断する最低の基準」として考えており、その他様々な要因も踏まえて生活路線のあり方について議論をしていきたいと考えている(事務局回答)